

2024年度（令和6年度）第4回 安全衛生・CSWG 議事要旨

I. 日 時 : 令和6年 9 月 9日（月） 15:00～17:00

II. 場 所 : 木住協6階会議室

III. 出席者（敬称略）欠席者はアンダーライン（出席者9名）

委員長 : 秋本 正人（住友林業（株））

リーダー : 瀧澤 哲也（住友林業（株））

委員 : 谷口 哲哉（（株）日本ハウスホールディングス）、楡井 洋（古河林業（株））、
杉山 勝也（ポラテック（株））、牧内 博行（（株）AQ Group）、
嶋田 味穂（大和ハウス工業（株））

オブザーバー : 武永 祐嗣（㈱プラネックス）

事務局 : 鈴木 保宏、松澤 ひろ美

【議事事項】

1. 前回議事録の確認 (資料1)

・事務局で読み上げ、修正なし。

2. 生産技術委員会 YouTube セミナー動画視聴回数（8/31 現在） (資料2)

視聴例でいうと、

「ヒューマンエラーによる墜転落災害の防止策」179回→128回、

「現場管理者の法的責任（1）」47回→36回、

「現場管理者の法的責任（2）」24回→08回

と下がってきてはいるが、一定程度の視聴回数を維持しているので、
コンスタントに視ていただいているということではないか。

3. 令和5年 低層住宅の労働災害発生状況報告書について (資料3)

・労働発生件数では、新築で、前年比98%の減少となっている。

・作業分類別では、建て方と内部造作工事が多くなっている（併せると全体の5割）

内部造作では、脚立が使われることが多く、手軽に扱えることや、高所作業ではない
という油断からか件数が多くなっている。

各社、脚立の使用に関して。

脚立の使用制限状況、上枠付脚立普及等、確認。

・職種別では、脚立を多く使用する「大工」や、高所での作業が多い「トビ足場工」が
多くなっている

- ・原因・型別労働災害発生状況では、墜転落が年々、下がってきている（47.7→40.6%）
職長の指導、気配りが効果を発揮しているのではないかな。
- 工具（切れ、こすれ）要因は増えてきている（丸鋸、釘打機要因増加）（16.2→20.1%）
（資料 9P、グラフ構成色が他ページと違う。住団連へ訂正要望）
- ・同様な仕事をしている「1人親方」「労働者」等、立場が違うが、それぞれ対応した安全、災害補償対策が必要である。
- ・年齢層別では、50歳から60歳以上で増加している。20歳未満でも、増加しているが、
これは、若い外国人労働者の労災発生状況が起因しているのではないかな。
- ・月別・曜日別・時間別では1.6月が多い。6月は熱中症が原因の一旦ではないかと思われる
また、水、土曜日が多く、18時以降の災害発生状況も増えてきていることから、
無理な残業等のケースもみられるのではないかな。

4. 「外国人労働者の災害対策・安全教育」書籍紹介

外国人の方、落ちると危ない等は、当然、理解しているが、例えば、
作業をする上での機械等の扱い方が不慣れなため、見たこともない機械作業
での事故等が多く発生している。

災害発生状況でも、墜落・転落（外国人、災害発生要因の15%）より、
はさまれ・巻き込まれ（同20%）が多くなっている。

※この書籍は、読んでもらおうと参考になる冊子となっております。

（購入数が増えると安くなります 50冊以上で送料サービス 242円/冊 税込）

5. 厚労省「職場における熱中症予防対策の徹底」

「7月までの熱中症による死傷災害の速報値」について

直近5年の7月までの、熱中症による休業4日以上死傷者数が2番目に多い。

7月単月は過去5年で、最多人数（休業4日以上死傷者 7月188（内死亡10）人）

前回、生産技術委員会にて、各社の熱中症対策を説明していただき、
各社、熱中症対策の参考にしていただいた。

ただ、年々、酷暑といわれる暑さも、続いていくと思うので、熱中症対策そのものを
リセットして考える必要があるのではないかな。

（ヨーロッパのようなシエスタタイム、サマータイム導入等）

- 1) 再修正部分について、プラネックス武永様より説明。

丸のこ作業の安全

- P4 平行定規のイラスト、T型定規のものに変更済
言葉表現変更済
- P5 文章変更済
- P8 ②「閉止点」を「元の位置までもどる」と表現変更済
③左下・右下に写真、文章を追加（具体例）
④ロックレバーの言葉がはいつた文章を追加・写真は訂正予定
（刃を手で持たないものへ訂正予定）
- P10 「丸のこを裏返して～直撃」
「足場上では、丸のこ作業しない」の文章削除
コードレス丸のこのイラストへ変更
- P11 1コマ 「止めたと思って床に置いた丸のこ～クサビで止められていた」→
「卓上スライド丸のこ～のこ歯に親指が接触」に差し替え
- P11 2コマ 「丸のこ作業中、散乱した～手を切傷」→
「間柱の長さを調整しよう～手を殺傷する」へ差し替え
文章は、「手持ち切りは押さえる力がかからず」より、材料が逃げってしまう
ことを記載
- P11 「屋外で～感電する」→
「深基礎の型枠の頭～肩を殺傷する」へ差し替え
- P14 「作業者はなぜ、作業中に「エアホース」をはずさなかったのか？」の設問を、
「作業者はなぜ、移動中に誤射してしまったのか？」に変更
- P15 「連発打ちの誤射から、自分の身を守る方法」に題材を変更。

新規

P16 「作業手順に問題はありませんか？」より

発生状況覧の一番下の●ポチは外す。

P18 4コマ目 右

・「打込力が以前より強くなった時」のケースはないのではないかと削除

P19 「エアホースに摩耗がない」というより、ねじれ、漏れ等のほうがいいのでは。

P20 1コマ目 高所での作業ではエアホースを固定する → 余長をとって固定する

2.3コマ目 フルハーネスの絵へ 屋根足場の絵は省略 ※但し書きはそのまま

4コマ目 コンプレッサーの絵、最新のもののへ

P21 1コマ目

「建方で作業中、養生シート敷込み職人と接触し」の養生シート職人を作業順番上、

違和感があるため、他の作業員へ変更。「釘が刺さる」→「誤射する」へ変更

2コマ目

「斜に釘を～」の「斜」は「斜め」ではないかとP10も同様。

「釘が滑り～」「釘打ち機が滑り～」に変更

「手や足を～」この場合「足」はいらないのではないかと

材料にしっかり、釘打ち機を固定する等、表記検討。脚立の絵、検討。

3コマ目

「釘が発射して～」を「誤射され～」に変更

今回、P21まで完了。次回、P22から。

尚、P8の丸のこ、歯の取付け写真、歯が逆なので、訂正。

※ 建災防安全大会

令和6年 10月 3,4日 東京にて予定。

【次回WGの予定】

・令和6年度 第5回安全衛生・CSWG

日時：令和6年 10月7日（月）15:00～17:00

場所：木住協 6階 会議室

以上